

令和4年度 一本松中学校学校評価(学年末)

愛南町重点目標

評価規準 A：目標を達成 B：6割以上肯定 C：4割以上肯定 D：4割未満 サンプル数 教職員(8人) 生徒(45人) 保護者(34人) 地域住民(24人)

重点目標	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定	学校による考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
					4	3	2	1
4 生き生きとした学校づくり	(1) 自律性や自治的能力の育成	学年末評価	◇教職員・生徒ともに、肯定が9割を超えた。生徒主体の学校行事や生徒会活動など、多くの場面で生徒が考え、協力し合えたことで、目標値を達成できたと考えられる。また、それを実感している生徒が増えている。 ◆2年生が生徒会活動の中心となる3学期からも、執行部が連携し合い、全校生徒が生き生きと活動できるよう努める。生徒の否定的な評価がなくなるよう、一人一人が輝ける生徒会活動を行っていく。また、来年度はさらに様々な場面で自ら考え、方向性を決め、協力し合える体制をつくり、さらに学校を活性化させる。	教職員アンケート	62	38	0	0
				生徒アンケート	73	22	5	0
	(2) 人権意識の醸成	学年末評価	◇肯定的な意見が9割を超えている。昨年度に比べると教職員や保護者が「やや当てはまる」から「当てはまる」に大きくシフトしている。地道な取組が評価されたのだと考える。しかし、生徒や保護者、地域の中に、否定的な意見があることが課題である。 ◆以前からの取組で、3年生を中心に人権意識が高揚しているが、まだ改善すべき点はある。教職員の人権意識を高めることや、指導内容について研究することが今後も必要である。また、コロナ禍で十分にできていない「地域との連携」を推進していく必要がある。校区別人権・同和教育懇談会への参加の呼び掛けや通信の配付など、地域に取組や学習を理解してもらう工夫が必要である。	教職員アンケート	87	13	0	0
				生徒アンケート	83	15	2	0
				保護者アンケート	85	12	3	0
				地域住民アンケート	48	44	8	0
	(3) 働き方改革の推進	学年末評価	◇教職員の8割以上が肯定であるため、A評価とした。愛サポの掲示板の活用や成績処理等で、連絡や情報交換において効率化が進んでいる。また、ICTを活用した授業改善も進んでいると実感している。 ◆今年度も夏季休業中にICT活用の研修を行ったが、今後も研修の機会や学び合いの機会を設けていく。	教職員アンケート	50	37	13	0
	(4) 学校行事の内容の精選	学年末評価	◇昨年度末に比べ、教職員・生徒・保護者とも(4)を選んだ割合が大幅に増えた。コロナ禍も3年目となり、規制するだけではなく、できることを厳選して生徒の主体的な活動を確保したことが高評価につながったと考えられる。 ◆学校行事は生徒の成長の場であると捉え、今後も様々な状況に対応しながら生徒の学びの機会と発表の場の確保に努める。また、行事内容を振り返り、改善点を次年度につなげることで、効果的な学校行事を運営する。	教職員アンケート	50	37	13	0
				生徒アンケート	78	22	0	0
				保護者アンケート	100	0	0	0
学校運営協議会の所見	学年末評価	○合う合わないはあって当たり前だと思うし問題もあると思うが、生徒同士の仲がよい学校だと感じる。 ○時代の流れと共に学校があらゆる面で苦労していると思うが、行事等を工夫して実施していることは評価できる。今後も、今しかできないことができる学校であってほしい。 ○自律性や自治的能力の育成の項目で、生徒の評価が高いのはよいことである。 ●人権意識の醸成はコミュニケーションの核となるため、引き続き教職員の共通理解のもとで生徒を見守ってほしい。 ●働き方改革の推進については努力が必要だと思われる。	学校の対応	学年末評価	生徒主体の学校行事や生徒会活動など、生徒自らが考え、協力し合える「共に生き合う学校」の実現に今後も取り組んでいく。 保護者や地域の方が学校を訪れる機会も増えてきたので、今まで以上に学校と家庭・地域が連携し、生徒が主体の学校を築いていく。			